京都府立植物園 100 周年未来構想委員会（第２回）概要

日時：平成 30 年 11 月 12 日(月曜日)
午後３時から５時まで
場所：植物園会館　多目的室

【出席委員】秋元委員、金田委員、下村委員、谷口委員、築山委員、並木委員、野中委員、前田委員
【事務局】田中副部長、嶋津課長、川﨑担当課長、戸部園長、西原副園長、岡垣課長、齊藤課長

1. 議　題

（1） 京都府立植物園開園 100 周年に向けた、植物園の魅力向上及び来園者サービスの向上並びに北山文化環境ゾーンの立地施設との有機的な連携について

（2） 意見交換

2. 主な意見

- 理念の「植物が主役」はすごくいい言葉、非常に分かり易い言葉で表現。
- 日本の植物園総合報告書（平成 20 年 3 月日本植物園協会発行）では、
  英国・キューガーデン：研究担当 200 人。
  アメリカ・ミズーリ植物園：教育担当 85 人、研究担当 115 人。
  中国・南京植物園：教育担当 30 人、研究担当 83 人。
  シンガポール植物園：教育担当 6 人、研究担当 23 人。
  韓国・韓国国立植物園：教育担当３人、研究担当 35 人。
  国内の国公立の新宿御苑、京都府立植物園、東山植物園：教育担当、研究担当いずれもゼロ。
  指定管理者制度導入の富山県中央植物園：教育担当５人、研究担当 11 人。
  高知県の牧野植物園：教育担当ゼロ、研究担当 6 人。
- 指定管理園は、植物園の使命を整理した上で、研究分野や教育分野の職員を配置していると思われる。
- 海外では標本の所蔵数が植物園の格につながる。
- 施設を整備するに当たっては、まず入園者目標を最初に掲げて、そこから何が必要かということを逆算して検討していくべき。

- 植物園も生きた植物を見せるということが、日本国内では重要なことなのではないか。
- 歴史系や美術系、植物系の学芸員が横断的に連携すると様々な研究ができる。
  植物をテーマにした企画でそれぞれの独自色を出しつつ連携すると、各植物園の研究者が目標に向かって研究を行い、一つの大きなテーマで展示会や展覧会ができれば、大きなインパクトを与えていける。国内の植物園との連携や海外の美術館、博物館とも連携できると思う。
- 設定した集客目標から考える際に、有料スペースだけではなく無料スペースの活用も重要なポイントと考えられる。国内で人気の美術館は無料スペースでの活動も美術館活動の一つとして位置づけ入館者数に組み込んでいる。
  入館者数が増えるというのは人気があることだと位置づけられ、リピーターが増える。さらにそれを旅行代理店などが非常に上手くプロモーションしていく。集客目標は必ずしも有料入館者数でなくてもよい。それがある意味では、バリアをとって街に開いている状態であると捉えているのではないかと思う。
- 企画展示について美術館と比べ、植物園は相互の連携はまだ濃くは無いので、今後の新しい展開で考えていくべき課題だと思う。
- その植物園に行ったら、何が見られるか、何があるかというイメージが非常に大事で、大きな吸引力になると思う。一時の企画ではなく、植物園そのものに何があるのかというのも大事な事の一つ。
- 水族館も研究職が行う研究のことを出してもなかなか入館にはつながらないということが往々にしてある。植物園も水族館も動物園も生き物、命を預かっているものとして、生物多様性や地球温暖化の問題で、今すごいスピードで地球の動植物が滅びていっているということ、大変なことになっているということを一般の方に少しでも知らせるきっかけ作りになればよいと思っている。
- 動物や植物はすべての命の根源で、すべての命に関わる生命体が植物だと思う。理念としては植物が主役と言うこと、是非その命を大事にする企画ができたらよいと思う。
- 通常動物園や植物園には必ずスターの生物というのが絶対にあるが、水族館では身近にいる生き物、皆さんの足下にいる生き物たちが実はすごいんだということを知ってもらうためにあえて作らなかった。しかし、それでは集客につながらない。
- 命を大事にするということを押さえたうえで研究員を配置し、難しい研究発表をわかりやすい柔らかな企画が行えれば集客につながると思う。
- 花を咲かせている時以外のその植物の生態や姿の変化を花だけでは無い切り口で、物語が見えるとまたちがった興味のひきかたにもなってくる。
- 確かに研究、研究員や学芸員は必要だと思うが、少し見方を変えて、例えば桜の

季節に咲く桜を見せるのと同時に、それらを題材にした美術品の展覧会をすると魅力や見方が違ってくると思う。栽培担当だけではわからないことをプロジェクトチームで、季節ごとに何をすればよいか、この時期だったら何が出せるかというような事ができるチームを植物園に作っておくと、研究とは別に植物園を活性化する一つのきっかけになるのではないかと思う。

- 植物園の魅力は植物園に来て色んな物を見て体験することだが、植物園に来てもらうためには、何か仕掛けが必要であり、それを専門に考えるチームを作っていくというのもあり得ると思う。さらに京都らしさ、源氏物語の庭を再現するような京都的な物があってもよいと思う。ある種のプロジェクト的に考えると、多くのイメージが沸いてくると思う。
- 植物園の魅力を掘り起こして、企画し、発信していく、外と繋がったチームがあれば良い。しかも、従来であればあまり植物園に足を運ぶ事がなかった人たちと繋がっていくと、新しい提案が生まれやすくなる。
- 植物園の屋外は常設の展示室だと思う。常設の中で人気のある物の宣伝だけを永続的にし続けるという考え方ではなく、植物園の場合は季節で変化していくというもう一つの歯車もある。季節ごとのテーマを決めると、ライトアップなどのイベントもそのテーマで行えるしアイデアが出やすい。プロモーションもテーマを伝えると記事になりやすい。今実施しているプログラムの展示をきっちりともう一回分析して、再構成していくと色々と見えてくると思う。
- できてから 94 年の植物園では相当のデータがあると思う。職員が身体で覚えている部分をデータ化していく必要があると思う。それを職員だけではなく府民がアクセスできるようにすると感動されると思う。花を見てこれを買いたいと思った時に、情報や育て方が出てくるようなシステムにすると植物園の情報が調べられる。そういうことにも研究が生きてくると思う。
- 植物園で園芸との接点をどう作るかということも大事な切り口のひとつになってくると思う。植物園は、園芸の世界とも繋がるし、ガーデニングの世界とも繋がっている。それ以上に、生きた植物の命というところが出発点にある。その姿をしっかり学んでいただく事も大事だし必要だ。
- 見せ方で企画と常設という考え方はなるほどと思った。特に植物園では、常設の宝がいくらでもあり、企画のネタをひねりだして一過性の物をせずとも、常設の今ある財産の中にお宝が沢山あるというのが実感。ただし、それをどう切り取って見せるかというところには、ソフト面でもハード面においても、考え方の一つのヒントがあると思う。
- 周辺の立地施設との連携を深めるという事についても、異分野から植物に光りを当ててもらえる人とワーキングチームを作り、個展や歴史、或は美術との連携を常設的に出来ていけば、もっと宝に光を当てられると思う。ハード面で新たな物

をやるのも大切だが、今の物をどう見せるかという観点から考えるのも一つの方法ではないかと思う。

- 北泉門が少し入りにくい。あそこが門だと分かっている人はいいが、門までの導線が非常に自然では無い感じがする。入りたくなるような門にするということを、是非やってもらいたい。
- 大学や歴彩館の奥まった所にあるので回遊ルートや誘導の工夫が必要なのでは。逆に言うと、あそこをもっと上手く使っていくと、地下鉄の北山駅から歴彩館を通るという道筋に魅力が出てくると思う。その辺りはこれからのプランだと思う。
- これから、このゾーンの中での歴彩館と府大と植物園とコンサートホールも含めた連携の一番の鍵になるのが実は北泉門。
- 無料ゾーン・通路という考え方は、おもしろい。今は外回りから、ほとんど中はわからない。だから、少し中がみえて、無料だからふらっと入っていけて、何かおもしろそうだから入園料を払って入ろうとなるようになればよい。
- 資料館跡地をどう活用するかという話しでは各ボーダーを外して、フリーゾーンにするとお互いに綺麗に見えると思う。資料館から入ってきた裏地が汚く見える。コンサートホールから見てもすごく汚い。あそこを綺麗にすると、植物園も綺麗に見えるし、北山のよいスポットになると思う。山ほどあるお宝をどう見せて行くのかというポジション的な部署を作らないと、今の人材で片手間にやるのは無理だと思う。それはコンサートホールや、府大、京都学・歴彩館みんながそこに集まって、どう人を集めるか、どう人を回遊させるかを共有しないとできない、それができたときにすごくよい場所になると思う。
- 東山植物園の再生プランの中で最初に手がけたのはトイレの整備。まず、トイレをしっかりと整備して、来園者サービスに繋いだ。たとえば、大学生などにトイレのデザインや、便器のデザインを考えてもらう。ウツボカズラやラフレシアなど植物の便器が植物園の中で現われても面白いと思う。
- 植物園と公園との違いということでは遊具は無い方がよいと思う。植物園に来たらどっぷり植物に浸かってもらうところだよという事を言えるとよいと思う。
- コンサートホールから植物園をみると素晴らしく綺麗。おそらく植物園から東を見ると、森の中から近代的な建物があるという空間はすごくおしゃれな空間。植物園が汚いのではなくて、植物園だけの問題ではない。だからボーダーを外してみんなの共有にして、それをしっかりとマネジメントして活用できるようにしないといけない。そうすることでお互いに綺麗に見えて、資料館跡地から繋がる景観、北山通の角の地下鉄から出て見渡すと、コンサートホールが見えて、陶板が見えて、美しい森が見えるような感じ。それだけでよいと思う。そうするとそこに行きたいとか、色んな発想が出てきて、お互いの価値観も上がると思う。
- コンサートホール、京都学・歴彩館、大学が仕切られた形になっているが、プロ

ムナードが完成するとそこが繋がる。その時に植物園は有料ゾーンとして、全くノーフェンスというわけにはいかないけれども、そのフェンスひとつのデザインにしても、木の刈り込み方や見せ方の工夫をすれば一体のものとして見えて、魅力も高まっていくのではと思う。ワーキンググループやチームを作って、絵を書いていくことが必要かと思う。